

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100030		
法人名	有限会社 ケアホーム 愛の手		
事業所名	グループホーム 愛の手 (ユニット①)		
所在地	〒020-0133 岩手県盛岡市青山1丁目12-13		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍となり、面会、外出が制限されたが、少しでも充実した生活が送れるように施設内での屋外レクや活動、行事に取り組んで、ストレスを溜めない様、ご利用者の笑顔の表出を心掛けています。ご家族、関係者の訪問、面会に関しては、機器的なツールが十分でないが、状況に応じた対策と規制を実施、可能な限り対面で面会できるよう、配慮し対応している。またご利用者に対し、日々傾聴に努め、不安や寂しさを感じないように寄り添ったケアに努めている。コロナ禍で日々の介護や健康管理にいつも以上に配慮した効果か、昨年11月以降、ご利用者の大きな体調の変化、入院等なく同じご利用者で満床の状態が続いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近くに病院や特別養護老人ホーム、警察署、消防署、スーパーなどがある生活環境の整った住宅地に立地し、医療や防災の面はもとより、町内会を通じた地区との交流にも取り組んでいる。グループホームの理念を職員間で共有し、利用者と職員が共同の生活者としての認識の下、利用者に寄り添って要望等を聴き取り、利用者は今ある能力を活かしながら、お手伝いに参加し共に支え合っている。利用者家族には、機関紙や運営推進会議の議事録を送付し、毎月手書きの「おたより」で利用者の生活状況を知らせ、家族の意見等を伺いながら意向に沿った介護サービスを提供している。また、運営推進会議の意見や職員の提案を基に、コロナ禍の対策や行事の開催、業務の改善、施設・備品の整備を進めている。かかりつけ医や協力医による訪問診療や訪問看護師による助言、指導を得て、看取りに向けたターミナルケアを行うなど、利用者の安心と家族の信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関先に掲げ、職員、来設者に周知している。パンフレットにも示して職員へ意識向上して、理念を生かしてケアを行っている。	法人の経営理念、グループホームの運営理念の下、職員で定めた理念を職員会議等を通じて共有し、利用者と職員が共同生活として、利用者に寄り添い、共に支え合い、きめ細かな介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり対面しての繋がりは減ったが、回覧板での情報収集や募金への協力、運営推進会議を通しての情報収集、伝達で、地域の一員としての交流を心掛けている。	町内会に加入し、回覧板が廻ってくるがコロナ禍によって行事そのものが減少し、あっても参加が難しくなっている。近隣の方から菜の花やコスモスをいただくなどの交流がある。また、近隣スーパーで認知症の方がゆっくり買い物できるスローショッピングの企画があり、期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍となり、家族会や敬老会など人を呼んでの企画はできなくなり、地域に向けての発信もほとんどできていないが、地域住民を対象としてのお買い物支援を取り組み中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度開催しているが、コロナ過で書面開催となったことが3回あり、電話やFax等を活用してご家族、関係者と連絡を取り合い意見をいただき、サービスの向上に努めている。	9月の運営推進会議は書面会議としたが、7、11月は参集して開催している。行事報告、利用者の状況、ヒヤリハットの報告などを行っている。委員の意見をいただき、非接触型検温器を導入した。会議結果は議事録として所内に掲示するとともに、家族にも送付し喜ばれている。	防災訓練への地域住民の参加、協力に向け、運営推進会議委員の訓練視察や議題に災害対策などを取り上げることにより、近隣住民の協力を得ていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍となり、かえって以前よりも市保健所、介護福祉課と連絡をとり、情報をいただいてケアに取り組むことにより、協力関係を築けている。	地域包括支援センターから各種情報や指導を得ているほか、市介護福祉課との連携を密にしており、特に今年度は1床増床することで頻繁にやりとりがあり、最終的に12月には増床が認められた。コロナ禍で市主催の研修会などは限られているが、可能な限り参加しており協力関係を築くことが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正化委員会を3か月に一度開き、身体拘束の廃止、適正化に向けて内部研修やアンケート等を行い、全職員が意識的に取り組んでいる。	身体拘束廃止適正化委員会は、職員2名も参加し3か月ごとに開催している。身体拘束が無いことの20項目のチェック表、毎回内部研修を行うなど積極的な取り組みを行っている。スピーチロックを防ぐことを常に意識するとともに、夜間の安全確保のため、鈴を取り付けている利用者があるものの、尊厳の確保に配慮している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で、知識を広げる機会を作り、また身体拘束廃止適正化委員が内部研修として虐待防止の注意喚起を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、保佐人を立てているご利用者がおり、学ぶ機会があったが、現在は対象者がいなく、会社の方針で生活保護の方の受け入れを休止しており、コロナ禍もあり、現在は学ぶ機会を逃している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に重要事項説明書や付随する書類の説明と同意をいただいている。料金の変更やサービスの類型に変更が生じた際には、家族会や書面にて同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での発言やご意見を議事録にして外部者に閲覧できるようにしている。また、議事録は家族へ郵送を行っている。ご家族、関係者の意見をいただけるように、ご意見箱を設置している。頂いた意見は管理者、施設長、社長に報告して改善に努めている。	利用者家族には、毎月手書きの手紙を送っており、利用者の様子がよく分かると感謝されている。利用者のやりたいこと、好きなことは生活歴などを参考によく話し合い、一緒に楽しみながら行っている。事業所として利用者、家族が望むことに一つ一つ丁寧に取り組む姿勢ができているとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍となり、全体会議の機会は減っているが、ミーティングやカンファレンス、朝夕礼で意見を拾い、社長の来所時に意見を反映させるように努めている。	社長が来訪する朝礼などで意見交換の機会が確保されており、今回の1床増床も職員の提案から始まっている。職員の資格取得についての配慮もあり、職員は個人ごとに目標を明示し、達成に向けた取り組みを行うとともに、それを評価する仕組みも出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1～2回、個別面談を行い目標や悩みについて話し、聞く機会を設けている。コロナ禍であるが、可能な限り、適当な方法で慰労の会を設けて職場環境の向上に努めている。外部研修参加の機会を設けて、職員のやりがい、モチベーションの向上に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 愛の手（ユニット①）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員参加のケアカンファレンスを毎月開催して、職員の内部研修の発表の場にもしている。全職員がそれぞれ別に与えられた課題に自ら取り組み、講師としてカンファレンスで発表している。それ以外にも1年に1回以上外部のケアに関する研修を受け、カンファレンスで発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和3年4月まで、地域密着型サービス協会のブロック長を務め、情報交換を行ってきた。また、現在も同協会の会員であり、情報の交流は続いているが、コロナ禍であり、集まっての交流はほとんどなくなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規契約の前に、生活実態調査と称して本人の様子確認の訪問を行っている。そこで書面情報だけでなく、本人から伝わる雰囲気や会話の伝わり方で、受け入れの準備が図られ、本人の安心確保につながっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階で、当施設の特徴などを説明しながら、本人、ご家族の困りごと等も確認、傾聴に努めている。その後の生活実態調査、契約時にも同様に確認するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所して他の事業所の介護サービスは提供できないが、医科、歯科、看護の連携を行い、基本情報や聞き取りで、必要に応じて補聴器業者やマッサージ、福祉用具等の活用、インフォーマルサービスの必要性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般に寄り添い、利用者の家であるように、家事やお手伝いをお願いして、家族であるかのような介護に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 愛の手（ユニット①）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、日常の様子をお手紙で家族に送付して、電話や来訪時に互いの意向を確認している。コロナ禍で、面会の機会は減ったが、電話の取次ぎや、状況に応じて、玄関先での面会を行って絆を保ち、支える関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会、外出の機会が減ったが、出来るだけ職員と一緒にドライブやお散歩等の外出の機会を作り、思い出の繋がりを保つように努めている。	以前は、町内会で道端に椅子を用意してもらってチャグチャグ馬コを楽しんだり、肴町の七夕見物や西部公民館の文化祭への参加もあった。コロナ禍で出来ることが限られているが、他人との接触の無い高松の池や公園へのドライブで馴染みの場所との繋がりの継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特性に合わせて、居室や座席の配置を考慮して決めている。実際にやってみて問題がある場合には、臨時にカンファレンスを開いたり、職員相談の上、配置換えや等の対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームの特徴なのか、同じ本人の相談を退所後に受けるケースは今までになく、退所後本人に近い方の相談や受け入れの問い合わせがあり、できる限り親身に対応している。退所後こちらからフォロー。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中で、本人の思いを汲むように努めている。カンファレンスやモニタリングで確認、本人の思いを代弁して、ケアプランの反映に努めている。	職員が寄り添って本人の思いを汲み取ることに努めており、ピアノを弾いたり玄関に飾る「迎春」の文字を書いたり、また、農家の方には菜園管理の助言をもらうなどしている。誕生会には本人の食べたいものを聞いて特別メニューにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、ケアマネ、前施設からの情報や基本情報からこれまでの暮らしやサービス利用の経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の毎日の会話や表情から本人の現状の把握に努め、朝夕礼やカンファレンスに申し送って共有している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度モニタリングを行い、現場職員とケアプランと実際の介護との乖離の有無を確認し、実際のケアやケアプランの修正を行っている。半年に一度ケアプランを家族に説明を行う際に、家族の意向を確認して、反映すべきものは修正して、反映するようにしている。	毎月、職員全員によるカンファレンスを開催すほか、職員によるモニタリングシートによる主要項目の確認を3か月単位で行っている。ケアマネがその結果を評価し、家族の意向を聴きながら、6か月ごとに介護計画を見直している。医師や訪問看護ステーションの看護師の医療的意見を盛り込むとともに、家族からの意見・要望も確認しながら反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別のケア記録に様子を記録し、特記事項は業務日誌にも記入し、日々のミーティングや毎月のカンファレンスで介護の実践に活かし、3か月に1度のモニタリング、半年ごとケアプランの更新で介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	補聴器の調整の為に業者の依頼や雑誌の購読を行っていたが、対象者が退去され、コロナ禍もあり、現在は職員が提供できる行事として、お出かけドライブや芋ほり、草取り、お散歩、買い物等の可能な外出支援サービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域の人的支援の提供する取り組みは出来ていない。家族との繋がりが一番の拠り所となっており、IT機器の導入、活用がない中で、回覧板、郵便や家族との電話、玄関先での面会で地域との繋がりをイメージしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向でかかりつけ医は決定されているが、特に決まっていない場合は、当ホームで協力医療機関に受診や往診を行っている。	協力医の訪問診療があり、多くの利用者が協力医をかかりつけ医としている。眼科などには家族が付き添っており、医師への情報提供は欠かしていない。協力医、訪問看護事業所との医療連携が円滑であり、適切な診療体制が確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と医療連携の契約を締結し、入所者に対して24時間体制で、医療連携体制を築いている。週一回以上訪問していただき、状態に応じた処置やアドバイスを頂いている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供は介護サマリー、退院時は病院からの退院時サマリーとして情報交換を行っている。医療連携相談室がある病院では、必要に応じて利用者の情報をいただいている。コロナワクチン接種で、職員ではあるが、医療連携相談室を通じてワクチン接種のご協力をいただけた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様の意向を聞ける範囲で確認している。家族様がまだそこまで考えられていない場合もあり、入所化の状態変化に応じて、確認するようにしている。医療連携により、重度化した場合の指針を定めており、全ご家族様の同意を頂いている。	入居の際、家族の意向を可能な限り確認して同意書をいただくとともに、状態に応じて再度確認することを常としている。ここ2年は看取りの例は無いが、かつて複数の経験がある。介護技術研修の一環として職員への研修を行っている。協力医、訪問看護との医療連携があり、終末期に向けた体制ができている。食事で口から栄養が摂れない状態になった場合には、病院や特養に移行する仕組みができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回以上、急変、緊急時の対応の研修を行い、手当や対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の火災想定避難訓練を実施している。その他、風水害や地震を想定した訓練を年一回以上行い、行動を確認している。緊急連絡訓練を年2回行い、正確で早い連絡体制の確立に努めている。コロナ禍で、地域との協力体制は構想のみで、築けていない。	火災想定避難訓練を昨年は3回実施している。万が一の避難場所として公民館と中学校が指定されているが、若干離れていること、トイレの使用に不安を持っている。近隣の支援・協力については十分に確立されている状況ではなく、また備蓄についての課題があり、解決の一手段として運営推進会議の活用を考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時の男女の区分けや更衣、排泄介助時のドアやカーテンを活用してプライバシーへの配慮を行っている。夜間は声のトーンを抑え、テレビの音量や照明を低くして配慮している。過去の生活の把握に努め、その人に合わせた声掛けや会話を心掛けている。	異性介助の問題は無いが、入浴、排泄の際のプライバシーの確保には重点的に取り組んでいる。事業所のモットーにもあるように、利用者一人一人の思いを大切に、その人に合った呼びかけや楽しみを一緒に行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者本位にならないように、聞きながら、お伺いをたててから介助するようにしている。日用品や消耗品は家族様に確認して、希望の物を持ってきていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課としての流れはあるが、その人に合わせたペースで入浴日時やお手伝いの変更などで、無理のないように支援している。自立支援の観点から、希望に合わせるだけでなく、無為に休まないで不活発にならないような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は混乱のないように、可能な限り自分で選んでいる。鏡で髪型等を確認できるよう支援している。定期的な散髪で本人の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りや下ごしらえ等、ご利用者と会話しながら一緒に行っている。食器拭きや後片付けもその人の状態に合わせて一緒に行っている。ご利用者の好みを聞き、メニューに反映させている。	食材は近くのスーパーで購入し、調理は利用者の手伝いも得ながら職員が行っている。メニューは旬を意識しながら職員が考案している。行事食、郷土食も取り入れ、誕生会には本人の希望を聞いて、寿司やおはぎなどを提供している。麺類は手打ちのそば、うどんもあり、おやつ作りにも工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や血液検査の結果などから、その人に合わせた食事量に調整している。食事形態も水分ゼリーや刻んでトロミをつけたり、食べやすいサイズに合わせていたりしている。水分不足がちな方にはその人に合わせた接種方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全ご利用者に対し、毎食後その人に合わせた口腔ケアを行い、清潔の保持に努めている。便を異食される方もおり、都度口腔内や手指衣類等の清潔に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるように、極力、リハパン、おむつの使用を避けている。歩けず、1人介助でトイレが難しい方でもリハパン、おむつは使用せず、2人介助でトイレ誘導している。	トイレでの排泄が重要であるとの認識を持って、極力、おむつは使用していないが、失敗は少ない。排泄チェック表で時間を見ながら誘導する利用者もあるが、多くの利用者が自立に繋がっており、介助は見守り程度となっている。入居によって改善した事例も多く、有効な支援が行われているとしている。夜間のポータブルトイレの利用は1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にその人に合わせた乳製品等を提供している。その人に合わせた運動を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数や時間を希望通り合わせる事は難しいが、極力希望通りの時間や順番で入浴できるように予定を組んでいる。入浴剤等も取り入れて楽しんでいただいている。	原則週2回の入浴としているが、入りたくないという利用者もあり、時間や順番の調整、入浴剤の投与などの工夫を行っている。入浴時は、コミュニケーションの場として、話したり、歌ったり、リラクセスできる環境が整えられている。1階の浴室はリフト付となっており、利用者、職員の負担が軽減されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の就寝時間がずれない様に、テレビや電気の消灯に配慮している。眠れないご利用者には声を抑えて会話、傾聴し他のご利用者の安眠を妨げないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今服用している薬と効能を一覧表にして、見えるところに掲示している。ケアマネが毎日職員に対しご利用者の状態の聞き取りや直接確認を行い、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の会話から楽しいと思う事を探り、レクリエーションやお手伝いの工夫をしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手 (ユニット①)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の制限をさせていただいているが、可能な限り、職員と一緒にドライブやお散歩、買い物などの機会を設けている。お参り等本人が習慣化しているものは、制限の範囲でご家族にご協力いただき、外出支援をする場合がある。	天気の良い日には近くの公園への散歩、少し離れたところにある畑にはドライブを兼ねて訪れるなど、コロナ禍であることに配慮しながら、年間計画を立てて出来ることを積極的に行っている。畑で収穫したサツマイモを前庭でバーベキューコンロを使って焼いて食べたときは、利用者の良い笑顔が見られたとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭の管理はご家族にお願いしているが、お買い物と一緒に出掛ける事があり、状況により一緒にお会計を行っている。現在のご利用者のレベルにおいて、計画立てて利用者のお金を使う事の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの依頼や、ご家族の希望で、電話やはがきは必要に応じてその都度対応している。携帯電話を所持されているご利用者もあり、対応可能な範囲で取次ぎや掛け方の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍で、今まで以上の換気を求められており、寒い季節では、ご利用者に我慢を強いている現実がある。雨の季節では外干しができず、内干しが多くなり室内や衣類が湿りがちで、不快を強いている。エアコンやストーブを適宜使用するが、限界もある為、お花や飾り物を作成して居心地の良い空間作りに努めている。	1階にウッドテラスがあり、明るさを確保するとともに、日向ぼっこの場にもなっている。また、吹き抜けで2階も明るさが確保されている。24時間換気システム、加湿器があり、暖房は全室パネルヒーターで、共用空間にはエアコンも完備されている。季節に応じた共同作品のはり絵や書道作品、刺し子のコップ敷が飾られるなど快適な空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子以外に、ソファを活用して時間になると配置換えして、想い想いの場所ですごしていただけるよう工夫している。また、会話を楽めるようにテーブル席の配置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に思い入れのある品物を持ってきたり、大切にお願いしている。楽器や本、人形など、大切な思い入れのある品物として取り扱っている。	電動ベッドとクローゼットが備え付けで、衣装ケースなどは利用者・家族の持ち込みとなっている。希望者には、本棚、イスも提供している。入り口には手作りののれんが飾られ、室内には利用者の作品、家族の写真や手紙などが飾られており、居心地の良い環境が整えられている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 愛の手（ユニット①）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	おむつ類は極力使用しないで、歩けない方でも出来るだけ日中ベッドの使用は避け、すべての方がホールに居て活動して不活発を防止して、できる事の維持に努めている。全盲の方には紙割きや梱包材の整理など状態に合わせた活動をお願いしている。		